

(合同) 第5回学校運営部会・第6回施設整備部会 議事録

(1) 日 時：令和5年2月14日(火) 午後7時より、(教育会館 第5研修室)

(2) 参加者：委員(13名)、事務局5名

(3) 内 容

① 部会長あいさつ

② 資料説明及び意見交換

- ・ 基本計画(案)とパブリックコメントについて
- ・ 今年度の進捗について(学校運営部会・施設整備部会)
- ・ 令和5年度の内容について(案)(学校運営部会・施設整備部会)

《部会長あいさつ》(省略)

《資料説明及び意見交換》

(基本計画(案)とパブリックコメントについて)

部会長 ・ それでは、レジメにしたがって会を進めたい。最初に基本計画(案)について、昨年12月に出させていただいたが、いくぶん修正箇所があるので、事務局の方から説明をお願いしたい。

事務局 ・ まず基本計画の(案)だが、机上に置いてある方とおいて置いてない方があり、置いてない方は別のところすでにお渡ししている。置いてある方は説明を聞いていただきたい。12月の議会前の再編準備委員会の時に12月議会に提示する基本計画の案というものを説明させていただいた。その後、年明けの1月11日から2月10日まで基本計画(案)についてのパブリックコメントを取らせていただいた。その期間は終了したが、パブリックコメントを取る案として12月に説明した内容にいくつか追加した情報がある。その追加した部分をいれてパブリックコメントを取らせていただいた。追加部分は15ページの第三章基本構想というところの一番下にある。特別教棟に書いてあるような部屋を設けることについて県と協議を続けていた。そのため12月段階ではお示しすることができなかった。県との協議で方向性も固まってきて、1月に入って載せたということである。技術は中学校にしか授業がないので技術室は設置し、理科室については主に中学生が使う部屋として整備する。音楽とか美術、家庭科で調理室や被服室があるが、これは中高が共用して使う特別室として設置をしていく方向。共用するというのは、中高のそれぞれの授業時間数を1週間でカウントをすると、支障なくその部屋を使うことができる。そういう意味で共用が可能としている。これまでの説明会でも伝えているが、高校生の合間を縫って中学生が使うことは決してない。中学校が使うときは中学校専用の部屋として使う。そういう環境が整備できるということで掲載した。もう一点は一番最後のページで建設にかかるイニシャルコストいわゆる建設費である。これは1月の臨時議会の後で新聞にも出たが、これも算出していなかったものをこのタイミングで算出して、計画の中にあるA案からG案までそれぞれでどのぐらいかかるかをまとめたものである。校舎棟とか

昇降口と一番左にある列はいわゆる校舎と生徒玄関を造る費用、ZEB化というのはゼロエネルギービルディングという形に引かかる費用、付帯施設というのは駐輪場などの部分を指していて、外構というのはグラウンドの整備とかの費用とご理解いただければと思う。これに地下通路の建設費を含めて、A案からG案で33.7億から39.4億円の見込みである。物価や資材の高騰で今後が見通せないが、現時点での算出として付け加えさせていただいてパブリックコメントを募集した。もう少し説明させていただくと、パブリックコメントを締め切って全部で19件いただいている。分量は一人ずつでちがうが全体としてはかなりの量になっている。反対の人たちのパブリックコメントが多い。今回は3件ほどは賛成の方向のパブリックコメントもいただいている状況。これについては市の考え方とかなどを取りまとめて公表しないといけないので、来週の最終再編準備委員会のところで、結果についてはお知らせをさせていただきたいと思っている。もう一点、この1月に入ってから、市内の各小学校校区で保護者対象の説明会をさせていただいた。これは中学校再編だけではなくて、子ども子育てに関する説明会で、市長も来ていただき、来年度から子ども政策を教員委員会に一元化する説明とか、この教育会館とか中央公園を整備していくという説明、後半は中学校再編の説明をするという会を9会場でさせていただき、先日終わった。この中にも来ていただいた方もいらっしゃるのので、改めて感謝を申し上げたい。その折に説明した内容についてもアンケートを取らせていただいた。これは基本計画の中身など来年度以降の検討の参考になるようにという趣旨で取らせていただいたので、これについても、来週の再編準備委員会の方で説明をさせていただきたいと思っている。本日は今年最後の会になるので、今年一年の振り返りと、来年度もこの組織は継続していくので、引き継ぎという意味でこういうことを取り組んでいくということを事務局の方から提案をさせていただくので、最後ということもあり、委員の皆様一人ずつこの一年の感想とか、来年度に向けての期待だとか、来年度はこうするといいいとかをご発言いただけるとありがたいので、よろしくお願ひしたいと思う。

- 部会長
事務局
- ・事務局から説明があった。何か聞いておきたいことがあればいかがか。
 - ・補足を一つ。先ほどの勝高の特別教棟について、今は古い教室だが県の方でリノベーションと言って長寿命化に向けてきれいにするという計画も出ているので、新しい中学校の開校の折には特別教棟はすべて新築みたいな部屋になっている。
- 部会長
委員1
- ・付け加えていただいたがどうか。
 - ・先日恐竜博物館の横に県立大学ができて学部棟が地層をイメージした格好の報道があった。これは基本計画だから、こんなものを置くということだが、この後業者がいろいろなことをされると思う。デザイン的な部分は楽しみにしていいものなのか。
- 事務局
- ・令和5年度の内容で説明をさせていただくが、基本的には設計者を決める

のは重要なことだと思う。その中で課題とかを提案してそれに対して具体的にしていくかということになる。費用だけではなく技術や経験をもとにした設計者を決めるので、自ずといいデザインにもなってくると思う。期待をしていきたいと思う。

部会長 ・新しい教育にどんな施設が必要なのか、次年度につなげていくということではよろしいか。では後ほど必要があれば意見をいただくことで次に進めたい。

(今年度の進捗について：学校運営部会)

部会長 ・今年度の各部会の進捗について各部会長からふれていただきたい。最初に学校運営部会から説明する。

学校部会長 ・多岐にわたることを検討したが、学校の柱になる部分、どんな学校を目指していくのかという部分を明らかにしていこうという形で話し合いが進められてきた。部会としては今日を含めて5回開催をしている。並行して中学校、高校の先生方に関わっていただいてワーキングチーム会議を編成してご意見をいろいろお聞きしながら学校の基本的な形を進めてきた。中学校像についていろいろな案が出てきて修正を繰り返した。新しい学校に対して今までとは違った学校像というものを入れ込んでいきたいという熱い思いがあって、素案からかなり修正を繰り返して12月に説明したような学校像に練り上がった。建て物もこういう学校を実現できるような建て物になってほしいと思うし、様々な活動が、この学校像が実現できるような方向に向いてくれるといいという思いでいる。さらに新しい特色ある教育活動は、住民の皆さんや保護者の皆さんになかなか分かりにくい部分ではあったが、特に中学校、高校別々にキャリア教育をしていたものを、中高一貫のメリットを活かして、18年間というライフスタイルをこれから見据えたような新しいものが必要ではないかという形で、ライフデザインタイムという名前で協議をしてきた。特別教棟の配置の問題は施設整備部会と同時進行で協議してきた。授業の中身と関係してどうあるべきか、中学生、高校生の動線はどういう形がいいのか、教育の中身の問題から新しい建築に対しての議論をしてきた。

(今年度の進捗について：施設整備部会)

部会長 ・では、次に施設整備部会について部会長から説明をお願いしたい。

施設部会長 ・本日は第6回だがこれまで皆さんに集まっていたき、主にワークショップという形で図面を前に皆さんのいろいろな意見を付箋に書いてもらって話し合うという形で行った。大きな成果としてはこの基本計画(案)の32ページからになる。A案からG案までいろいろな案が出る中で、○や×として示しているがそれぞれに意見を出していただいた。基本計画(案)には最後にA案からG案まで試算がついている。このようにこの段階ではいろいろな案を考えて、どういう可能性があるんだろうと検討して、試算を出すことができた。この案が議会を通過してほしい35億ぐらいで造るといふ話になると、そこを条件として全国の設計事務所ごとにプロポーザルとい

う形になってくる。そこで各設計事務所が設計を提案してくる。来年は本格的な基本設計という段階になる。基本計画（案）で設計という言葉を感じないのは形がないからで、来年には設計という行為でどんどん形にしていく。やはりせっかく作るのだから、勝山の代表的な施設になるということ念頭にこだわってやっていきたいと思う。

部会長 ・施設整備部会長からの説明だった。施設整備の面でご質問等があれば伺いたい。

部会長 ・特になければ、令和5年度の内容について事務局よりお願いしたい。

（令和5年度の内容について（案）：学校運営部会）

事務局 ・資料（令和5年度の内容について（案））の学校運営部会について説明。

部会長 ・ここで少し委員の皆さんに今年の振り返りと来年度への提案を含めて一人ずつ聞きたいと思う。

委員1 ・ワーキングチーム会議と部会の視点から報告と今後のことについて話をさせていただく。ワーキングチーム会議ではこの基本計画（案）の4ページからの新中学校の学校像についていろいろな意見交換をした。高校の先生、中学校の先生といろいろなことを話をして結果的にはかなり練り上げたものになったと思っている。若い先生方がともすると、こんな教育をしたいと思っても無理だと思っていたようなことがこの会なら言ってもいいと気付いて本当に歯に衣を着せず話ができた。自分自身もそうだが先生方が成長する機会をいただいたという感想を持っている。学校に戻ってきて、自分の学校を変えたいと熱く燃えている状況になった。中高連携だけが一番のメインのような議論だったが、そうではなくて勝山の子をみんな育てる、勝山に生まれてから高校を卒業するまで育てる、18年の教育をどうしていくかを考えなくてはいけない、その中核としてこの新しい学校を位置づける。高校も最後の華を咲かせる部分ということで考えれば市民総がかりの勝山型18年教育という名前と呼ぶといいなと感じていた。それをどう具現化していくのかを考えるのにはいいチャンスをいただいたという思いで議論を進めてきた。それを具体化していく上で実際にやったことがないと机上の空論だけになってしまう。5、6ページに5つの項目が書かれているが、これを実際に今の中学校で何か取り入れられることはないか、ということ中学校の校長会で話をした。それぞれ学校の授業や取り組み具合が違うので、一律にやりましょうとはなかなかいかない部分もあり、それぞれがやれる範囲で取り組んでその実績をもとに話し合うという状況になっている。特に自分自身の感想だが、18年教育の中で私たちが子ども達に育てる力は主体性とか自分で動いて自分で考えて自分で勉強していく子を育てなくてはいけないと強く感じている。これからは自分で考えて自分で行動していかないといけない。ぜひ子どもの主体性を伸ばす教育を系統立てて生まれた時から18歳まで進めたい。日本一の教育区にしたいという思いがわいた。一例として次年度に向けて少し試行したいということをお願いしたい。中学校の現状を考えた時に、いろいろなもの

が入っていて混乱しているというのが現状で、ライフデザインタイムとか探究の時間をきちんと確保できるようにプロジェクトタイムという名前で、今年月曜日の6時間目に設けた。月曜日は授業45分にして、そこに子ども主体の活動ができる時間を入れてやってきた。最初いろいろな行事が入ってしまったが、後半、委員会活動としてきちんと確保して、子ども達が自分たちで考えて具体的なアイデアが出てきて、子ども達が自らで学校を動かしているということが少し芽生えてきた。来年は毎日を帯どりするという形を取って、探究的な活動を総合的な学習の時間と組み合わせてもっと豊かにやっていけたらと思っているし、ライフデザインタイムという考え方が、単なる職業教育とか進路指導とかだけではなく、日々の自分の生活を管理できる子どもを育てなくてはいけない。その延長上に進路とか職業とかもあるので、まず自分の生活を管理するために、生活ノートを切り替えて、自分の一日の生活を計画立ててそれができたかどうかを振り返っていくようなノートにしていく。これは勝山高校がやっている今未来ノートと趣旨はつながると思うし、プロジェクトタイムは勝山高校がやっているKT(勝高タイム)の時間につながる。子ども達が主体性を伸ばす教育にどこまでつなげられるか、それを共有しながら進めていければと考えている。

委員2 ・高校側からいろいろな議論に加わらせていただいた。令和4年度から探究特進科がスタートして探究活動の枠組みも少し新しくなり、KTという活動タイムとして月曜日から木曜日の7限目を生徒が自主的に学習に取り組める時間という形で週に4コマ設定した。ワーキングチーム会議でも話をさせていただきながら、メディアの方もたくさん取り上げていただいたので、勝高のよさを発信していく形で知っていただいた。学校運営部会では高校の現状をお伝えしながら議論に参加させていただいていた。探究にしても中高連携にしても中学校との関係をしっかり築いていくという意味で、中学校の先生に授業を見に来てもらったり、高校の教員が中学校に出向いて授業を見たりとすでに教員の交流は始めているし、中学校の文化祭に呼んでいただいたり日本文化部が行かせていただいたりいろいろなつながりを今作っている段階にある。令和5年度は特に具体的に高校側からも働きかけてやっていきたいと思う。探究特進科が2年目に入るし、少しずつレベルアップしながら中高の探究や中高連携のつながりを意識しながら進めていきたい。

委員3 ・会を重ねるごとにいろいろな具体的な考えが私自身もわかったし、周りの先生方を見ても再編で描いている新しい学校がいいということが浸透してきたというか実際に考えの中に入ってきている人が多くなっていると感じる。中学校の教員で三役会議をしているが、率先してやっていることを聞いて最初は無理と思っていた事が実際にやっている姿を見て取り入れられるかもしれないと思う先生方が増えてきた。後追いにはなるが、具体的な所を見せていただくことによって、より理解が早くなって進

みやすくなると感じる。勝高の1年生に中学校に来てもらって1回だけ探究について話をしてもらった。中学3年生が聞いていて理解することができた。実際にやっているところを見るとか、中に入ってやるというのが近道だとすごく感じた。

委員4 ・探究的な学習やキャリア教育について今年を見てみると、総合的な学習の時間で年間計画を組んでそれなりにしっかりやっている。来年は1時間増やして、実際には総合的な学習の時間に行事の準備が入っても余裕が持てるように、月曜日に委員会があるが月に2回はあくのでその2時間を使えないかと考えている。学校が変わっていく中で、一番変わらなくてはいけないのは先生だと思う。講義をしてはいけないと思うがなかなか抜けない。新しい学校を考えた時にその授業ができる設備なり教育課程を作るのが大事かなっていうことを強く思っている。表向きは子どもが主体的と言うが、その主体性を引っ張り出すのは先生だと思う。最近よく言われるのが、how to teachからhow to learn、どうやって子どもに学ぶ力をつけていくか、そういう教育が成り立つ校舎を作ってほしい。ZEBについては、子ども達が実際に目の前で今の課題を考えていくことができる。教材自体が校舎にある。教育課程も大事だと思うが、いろいろなことで生徒が自主的に活動できる学校になってほしいという思いで、新しくするなら日本一の学校、SDGsもすべて含めて、ちょっと工夫すれば新しい教育にどんどん取り組んでいくことができる学校になればいいのではないかなと思う。昔のいわゆるペーパーテストで点数を取れてもダメで、共通テストの数学の問題はストーリーになっている。ほかの教科もそうだと思うが、数学の知識を持っていても解けない。文脈を追って数学の問題が物語になっている。この結果を出すために前振りがあつてずっと積み上げていって結果でこれが小問1、2、3となる。それを解ける子を作っていかなければいけない。教員も意識改革するチャンスで新しい授業をできる学校になってほしいと思う。

委員5 ・幼児教育から高校までの勝山の教育が今から変わっていくことに携わらせていただいて、いろいろなことを知ることができてよかったと思う。自分はたまたまそういう立場で携わらせていただいて、学校の職員にも伝えられたが、他の小学校の先生にまで十分に伝えられなかった。中学校や高校がやっている中で、小学校も変わっていかなくてはいけないと感じている。どうしても再編というと3つの中学校が一緒になると思っていたが、9つの小学校が一つに集まってくる。1年生は何々中学校という概念ではなく9つの小学校が集まってくる。小学校は探究的な学習という言葉ではないが、自主性を伸ばして自分たちで故郷の各地域のいろんなことを調べて、よりよくしていこうと、小学校なりに一生懸命どの小学校も取り組んでいる。9個の宝が1つに集まってきた時に、例えば南の子は北郷の子が何をしているのかは知らない。小学校のうちに校区という枠を超えて勝山全体の良さというのをネットワークをして、中学校になったときにそれぞ

れの良さを生かしながら別のもっといいものを作り上げる意識で中学校に行けるといいのかなと思った。勝山高校の日本文化部の方に演奏をしていただいたが、高校生のお兄ちゃん、お姉ちゃんを見る目は小学生だと全く違う。勝高のよさを中学校にもという話があったが、小学校にもどんどん発信していただきたい。高校生って格好いいんだなあと思う。去年は勝高生が学校へきてプレゼンしてくれたことがあった。驚きながらもあのお兄ちゃん声が小さかったとか小学生なのに偉そうなことも言っていたりもして小高連携も面白いのではないか。小学校のうちから地元はいいよと思うことがこれから大事なのではないか。再編に向けて小学校は小学校で9つが一緒になっていくんだよという視点でのつながりもこれから強くしていかななくてはいけないと感じた。

部会長 ・それぞれの部会のメンバーから今年の振り返りと来年に向けての展望を聞いた。次の施設の方の令和5年度の内容について事務局から話していただきたい。

(令和5年度の内容について(案):施設整備部会)

事務局 ・資料(令和5年度の内容について(案))の施設整備部会について説明。

部会長 ・事務局の方から説明があった。感想を含めてアイデアとかご意見があれば一人ずつ伺いたい。

委員1 ・これからの中学校の学校像の話の中で、勝山像18年教育という言葉にすっと落ちた。子どもが小さい頃から幼稚園と保育園、文科省と厚生労働省があって小中、そして高校と縦割りがあまりにもはっきりしていてこれがすっきりできたらもう少し連携ができるのかなと思っていた。これから勝山市としてはそういうところを目指そうということで自分としては納得できる。自分の会社にも小中学生の子どもを持つ親御さんがいて以前からこの件について話をする機会を設けさせてもらっている。とりあえず意見を聞くという形で話をさせていただいた。当初は全く興味を示してくれなかった。なかなか実際の具体的なイメージができないところがあったが何回か話す中でこの校舎の建物みたいに具体的に見えてくるといろいろな話もできる。まずどういう中学校になるのかというところが親としては一番聞きたい。付随するスクールバスは二の次であって実際の勝山市で子ども達を育てていく上で、中学校がどういう位置づけにあるのかが一番興味を持つ。親御さんたちもそこをある程度理解できてくると、今回やっている準備委員会の意味づけが非常にわかりやすくなったと言ってくれた。最終的には建物自体の具体的な案がいくつも出てくると早く建てることはできないのかという意見もある。今回の会議に参加する中で、建物も本当に大事なのだが、子ども達が中学校に入ってどういう教育を受けてどういうふうになるのかが、親としては大事なところではないか。何人かは家に帰って子どもと話をしたという。今後、一番の根幹がすごいというところをきちんと理解してもらおうということも大事で、小学校も全部含めた中で勝山市みんな育てていくというところを理解してもらえると

わかっていただけると感じている。設備についてはグループセッションでいろいろ話をして、こういうやり方もあるんだと勉強させていただいた。

一つだけ確認したいことがあって、昇降口を建て直すとなると県との話があるがそのあたりはどうなっているのか。

- 事務局
施設部会長
- ・県とは協議をしているところ。
 - ・これが議会を通過して執行できるという話になってきたら進められるということか。今の話だとまだ計画自体が決まってないから具体的には進められないということか。
- 事務局
- ・県の方針もあるので協議の中で順序立ててお互いに順番を間違えないような形でやっていかないとと思っている。
- 委員 2
- ・子どもがあまり成績が良くなって、中学に行って勝高に入れなくなった時にのけ者にされることがないようにしてほしいという声があった。
- 委員 3
- ・本当に貴重な経験をさせていただいたというのが第一の感想で、勝山高校の玄関を建て替えてほしい。E、F、G案は昇降口のところの予算が多いので建て替えを考えてほしいと思う。中学校から高校に行った時に子ども達が寂しい思いをしない方がいい。選択肢の中に勝高を入れてもらえればいい。自分の家も設計したことがないが、子ども達が動きやすいようにということは、自分たちや先生が一番よくわかっていると思う。素人でわけもわからない人が言うことが意外にそうだねと思ってもらえるかなと参加させていただいた。先生たちの話を聞いて本当にありがたいなと思った。子ども達を一生懸命教育してくださっているんだなと思う。県PTAで話をした時に一番思ったのは、子ども達に変われと言っているのに、先生達の教育について県はどう考えているのかと思った。親が変わらないと絶対子どもは成長しないと思う。一生懸命先生と子どもが自分の主体性を伸ばそうと思ってやっているのに親が止めては本末転倒もいいところなので、先生達にも周知していただくと同時に親にも子ども達に接する接し方を教えていっていただければありがたいなと思う。おじいちゃん、おばあちゃんになった時に、おばあちゃんの考えは古いと言われた時にいろいろ考えていきたいなと思う。自分の娘が中学にあがった時に定期テストの勉強の仕方がわからなかったというのは本当にかわいそうだなと思った。一番下の子どもに関しては、小学校の先生が自主的に勉強する仕方を、3、4年生ぐらいから教えてくれたので問題は無かった。スムーズに保育園から見ているような教育体制が取れると子どもが一番楽になると思う。
- 委員 4
- ・施設整備部会でA案からG案まで何度も何度も出していただいて、いろいろな話し合いをしてきてその中でさまざまな気づきがあった。この中から一つに絞ってかつ素晴らしい設計士がまた一つ工夫を加えて立派な建物ができることをすごく楽しみにしている。新しい特色のある教育を考えていただいて、先生方も教え方を工夫していただければいい。そうすれば当然校舎もきれいになり工夫されそのような状態になれば生徒は大きく変わってくると思う。その刺激を保護者が一番受けなくてはいけない

と思う。勝山がどんどん良くなってくれば一番うれしく思う。

委員 5 ・今年一年、いろいろ話をする中で先生方が一生懸命連携しながらされていることもわかったし、今後こういったようにしていきたいという意見もわかった。保護者としては自分の子どもがいる学校のことしかわからない、もしくは子どもから伝えられたことしかわからないのが正直なところである。ぜひほかの学校でこういうことをしているからうちの学校でも始めたよとか子どもに伝えていただいて、子どもから保護者へ伝わるといい。どうしても最近特に情報が多いのでわかる場所しか興味を抱かない。反対の方や賛成の方と話をしているが、気になっているところを説明するとだいたい同じ目線になってしまう。理解していただきたいという部分もあるので、PRの方もあわせてしていただけるともう少し良くなっていくのではないかと。先生方に対しての理解も進むと思うので、ぜひそういった面でも大変だと思いがほしい。役員会とか、先生方同士でいろいろなことを話されているということがわかった。どうしても資料の中では「それぞれ」という形で学校が独立して動いていますみたいなイメージが出てしまうところがあるので、書き方とか子ども達への話し方を少しずつ変えていっていただけるとありがたい。来年度以降、中学校同士が交流したりとか小学校同士が交流したりとかということが少しずつ令和9年度に向けて進んでいくことだと思う。そういったところも少しでも議論いただいて、こういったことに取り組んでいるということぜひ保護者にPRしていただければと思う。

委員 6 ・今年一年会議に出席して先生方も含めていろいろな方がいて、いろいろな意見が出て、いろいろなアイデアが出て、再編の話が聞けたことを、自分の中ではすごくいい経験をさせてもらったと思う。今年一年は意見を出してくださいから始まった。本当にすごい意見が出ているなあと集約された物がここにあるが、事業スケジュールを見ると、4月から業者選定が始まるなら、あと1ヶ月ちょっとで、6月で本当に業者が決まるのであれば、もう3ヶ月で決まってしまう。本当にトントントンと進んでいるなど感じている。来年度の部会があるのだろうが来年の会議はすごく濃厚な会議になるのかという感じがする。来年の話ではそのまま業者も決まってしまうのでそのまま基本計画に行って本当に話が早いかなという感じもする。業者が決まっているのであれば、業者が出てもいい会があるのであればそこに参加されてもいいのではないかと。業者がまた別な角度でアイデアを提案されると思うので、委員の意見もいろいろなものが出るかなと思う。一年でいろいろなアイデアが出たわけだが少ない意見も多々あると思う。その意見を捨てずに可能な限り反映させてはと思う。

委員 7 ・一年間貴重な体験させていただいた。率直な意見としてはどこか他人事のような形で最初は参加させていただいたが、参加するごとに興味を持って貴重な経験させていただいた。特に施設部会で一番印象に残っているの

は、生まれて初めて聞いたZEB化という言葉。先ほど話があったように例えばZEB化でただ暖かい学校だよねとか、省エネの学校だよねと終わるのではなく、目に見えるもの、毎月の電気料金であったりとか、そういう環境的なことであったりとか、それがすごく学びにつながっていくとすごく面白いなと思う。環境的なことも考えることができるし、いろんな議論とか意見交換ができるかなと思うのでよろしくお願ひしたい。

部会長 ・皆さんの意見を伺った。最後にここだけはどうしてもという発言があれば伺いたい。

委員 8 ・生徒が主役の校舎はできないのか。令和7年、8年の子ども達が3年生、2年生と2年間かけて新しい自分達の学校をデザインできるとそれが探究にもなる。高校生のアドバイスももらおうと面白いと思う。そういう設計の余地を残してもらえら業者が決まらない今伝えておいたほうがいいかなと思った。自分達が入る校舎を一部は自分達で作ったんだよと言えるようなことができればいい。2年間ですごい子ども達も盛り上がるし、地域にも子ども達もこの学校を考えているというようなことが発信できるといいかなと思う。設計段階のところで業者からそういう提案を考えていただけるとありがたい。

部会長 ・いろいろな制限はあると思うが、来年度に向けて早めに検討していただいて提案いただければと思う。

委員 9 ・練り上げていくコンセプトの中で、市民総がかりの18年教育という言葉と、新たな文教ゾーンの設立という言葉がある。先ほど話題に出ている勝山の教育の中核になるということと恐竜博物館が一つの核としてあることに対してあの一角が新しい子ども達の教育ゾーンになるとすると、長山公園の再開発とか、長山公園の扱い方も非常に重要になってくると感じている。設計をするまでに一体的にコンセプトを考えていくことをやっていたらと、子ども達は豊かな自然の中で学べるという素晴らしい環境を手にするにつながると思うので、選択肢としてそういう視点を持っていただくといいのかと思う。

部会長 ・以上でよろしいか。来週最終の委員会を開くので、不足している部分があればそでご提案なりご意見をいただければと思う。今日はこれで閉じたいと思う。最後に事務局にお願ひする。

事務局 ・部会としては今日が今年度最後ということで改めて一年間いろいろとご助言いただいたことにお礼を申し上げたい。今日もいろいろ感想も含めて来年度に向けての話をしていただいた。来週が最終の全体会ということで、恐縮だが、来週の内容については、一つは基本計画のパブリックコメントを踏まえてわれわれとしては修正する必要はないと思って、そのまま3月議会に臨もうと思っているし、そのことをご了承いただくことと、もう一つは来年度に向けて今日話していただいたことを、最終皆さんで、もう一度確認し合ったりご意見をいただくというような会になると思う。特に個人としては来年度は建設に少し目処が立って設計が始まれば進んでいくこと

なので、今度は学校の教育内容とかカリキュラムとかそこはかなり注力して具体を決めていく。それが今ご意見があつたが、設計とかにつながっていくといいと思うし、今年度の反省としてはあまり子ども達に絡んでもらうことが時間的にもできなかつた。先ほど校舎の話もあつたし、制服とかいろいろなことを決めていかななくてはいけない時にどんどん子ども達に関わってもらふようなことも、来年度から検討を始めていきたい。それではこれをもって終了させていただきたいと思う。メンバーも入れ替えはあるがこの組織は続いていくことになると思うので、継続することをお願いする方とか、変わったいただく方とか、いろいろとあると思うが、引き続きいろいろな立場でこの推進についてお力添えを賜りたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

資料. 勝山市立中学校建設基本計画（案）

資料. 令和5年度の内容について（案）